

第100回全国高校サッカ
ー選手権第2日は28日、首都
圏8会場で1回戦15試合が行
われた。2大会ぶり46度目出
場の秋田商は、埼玉東武東上
線の飛谷スポーツ文化公園陸上
競技場で3度の優勝経験があ
る東福岡に0-1で競り負け

第100回
全国高校
サッカー

〈第2日〉

た。大会ぶりの優勝を狙った静岡学園は徳島商に5-0で大勝。流通経大柏(千葉)は近天和歌山に1-1からのPK戦で敗れた。大津(熊本)堀越(東京A)阪南大高(大阪)岡山学芸館なども同戦へ進んだ。(伊藤正孝)

柳村(穀田)烟村(船川)	刈	秋田	4・4・2
		青森内路川中野田野川	
		藤木	
		佐藤木鋤船光中殿近長	
	GK		H33 H30 SCF
	成田中野井原	刈	1085
	浦上	刈	1085
	戸吉園高岡	大樽中	
	(東福園)	3・6・1	
	▽交代(栗)	糠田(中原)林(大)	
	刈	川辺(寒)米谷(長谷)	

東横岡は自陣ゴール前で5バック気味で守備を固め、秋田の猛反撃をはね返した。

▽1回戦
東福岡 1 (0 1) 0 秋田商
▽得点者【東】 檜崎▽40分ハーフキックオ
フ 秋田商▽主審 宗像▽副審 手塚、國藤
先制を許した秋田商は、後えなかった。
半に反撃に出たがゴールを奪い、序盤は東福岡がサイ

で押し込む展開。秋田商はDF鈴木悠を中心に粘り強い守備でしのいだが、30分に右サイドのスルーパスから崩されてゴールを決められた。

ール前まで攻め込みのチャンスをつくるも、東福岡の体を張った守備に同点を阻まれた。交代カードを切って前線の活性化を図ったが、最後までゴールが遠かった。

た。東田岡は両サイドに張った選手を有効に使い、秋田商ディフェンスが対応できなかつた一瞬の隙を突き、ゴールを決めてみせた。一相手クロスに戻りきらず悔いが残るとMF中野宏宣主将（同）は振り返る。鍛え抜かれたフィジカルや球際の強さ、疲れ知らずの走力、堅守を武器に全国大会で強豪と渡り合ってきた秋田商（伝統

的に強みとする部分を等
け懸きつつ、第100回
の節目の大会でひと味違
った戦いも印象づけた。

選手はゴール前を5パッ
ク気味に固める相手DF
を見て、大事にパスをつ
ないで攻め上がった。タ
イミングを見計らって攻
撃のキアを上げることで
後半の反撃につながった。

現チム昇足間もない
頃は、攻め急ぐあまりに
不利な形でボールを失う
ことが多かったという。

ボールをつなぐ意識が徐
々に浸透し、相手の出方
や戦況を算極める力が培
われた。「悔しいが、や
つてきたことは全て出し
た。秋田県のサッカーが
ここまで戦えることは示
せたと思う」。伝統校の
主将としての重責を全うし
た中野の表情はすがすが
しかった。

©秋田魁新報社



焦点

一息を追う後半、秋田商の攻撃が活気づいた。敵陣のベナルディエリ・A付近、バスワークでDFを崩すと、MF近野由安（3年）はドリブルで切り込んだ。立て続けにシュートに持ち込んだのが、高校年代最高峰のブレミアリアグウエスト（10チー）で戦う東福岡の分厚い守備に阻まれた。

結果的にゴール前での決定力の差が勝敗を分けた。

【秋田商・東福岡】前半、ディフェンスをかわし前線にパスを出す秋田商の中野（10）熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

決定力の差、勝敗分ける



東福岡に敗れ肩を落とす秋田商の選手